こんにちは、
日本共産党井上けんじです

日本共産党南地区委員会☎ 371-9164 自宅☎(F 兼)691-3323 （携帯） 090-7880-9442
日本共産党京都市会議員団 ☎２２２－３７２８ FAX ２１１－２１３０
市会議員団ホームページ http://cpgkyoto.jp/ E-mail info@cpgkyoto.jp

２０２０年 10 月 25 日

いろいろな会合に出席、勉強しています。

自民党政府の進める
全世代型社会保障とは、全世代への負担増と給付減

14 日は「全世代型社会保障について」。

財界と政府は人口減少による労働力不足対策として高齢者の就労を促進、全世代平等の名のもとに、全世代への負担増と給付減を押しつけようとしている、とのお話。自民党政府は、特に後期高齢者の医療窓口負担の値上げなどを計画しています。

講師は二宮厚美神戸大名誉教授。

中小零細業者を潰さない

また 17 日は「コロナ禍の中小企業経営と政治の在り方」懇談会。コロナのもとで、営業収入激減など大きな影響を受けている各業界分野の事業者から、「売上げが８割５分落ちた。政府の GoTo トラベルは大手だけ応援の愚策だ」など切実な現状や批判が報告されました。

日本共産党のこくた恵二衆院議員からも挨拶。また同党の大門実紀史参院議員からも報告。「業者が倒れると、その分野での技術が途絶えその産業が衰退。潰れる前の応援が大事」等と訴えられました（上の写真）

地球温暖化対策を急げ

１９日の市議会で、井上けんじ議員が、地球温暖化対策について質問しました。

集中豪雨や台風の大型化など、異常気象も温暖化の影響と言われています。食料危機や熱中症増加など、温暖化防止は、人類の死活的課題となっています。京都市として、一層、対策を強化し、急ぐように求めました。

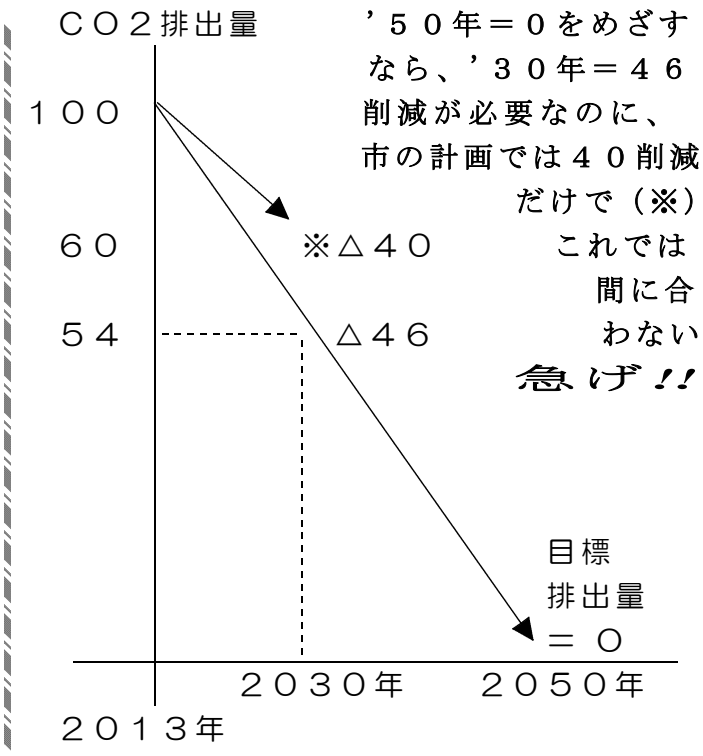
石油石炭から再生可能エネルギーへ

京都市では、温暖化の原因である二酸化炭素＝CO2排出量を、2030年迄に、2013年度と比べ「40％以上減らす、2050年度迄にゼロに」との目標を掲げています。

井上議員は、「50年ゼロを掲げたことは良いことだが、私の計算では、30年に46減らしておかないと間に合わない。市の計画では『～迄に、40以上、減らす』と、あいまいな表現になっている。むしろ前倒しの遂行が必要だ」と指摘しました。更に、「市民の努力だけでなく、市役所が、再生可能エネルギーの導入・普及の先頭に立つとともに、大手事業所や運輸関係での削減の具体化、誘導、指導助言などに力を注ぐべきと追及しました。

また、国に対し、もっと目標を引き上げるよう求めること、市自身も北陸新幹線や自動車優先の大型事業推進など、CO2削減に逆行する計画を進めていることから、これらの撤回を求めました。

※ ※ 副市長は、「石油・石炭に依存しない再生可能エネルギーを主力にする。省エネ・再エネ、森林吸収、あらゆる分野での取組みの強化を」等との答弁の一方で、「新幹線や道路事業は社会活動上の必要性も大事」と居直りました。



最近の相談から

◎引っ越しのお手伝い
◎借家を探していますが、不動産会社を紹介してほしい。
◎サラ金に追われて借家を飛び出し、現在、友人宅に寄せてもらっていますが今後どうすればいいでしょうか。
◎隣の空き家の木の枝と葉が我が家の空間にせり出してきているがどうすればいいか。